

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0171200116		
法人名	有限会社 ケアソリューション		
事業所名	グループホーム すずらの家		
所在地	恵庭市黄金北3丁目12番6号 (電話) 0123-39-2223		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年3月15日	評価確定日	平成22年5月11日

【情報提供票より】 (22年2月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年1月18日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	7人, 非常勤 5人, 常勤換算 7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3階建ての	2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,777円	その他の経費(月額)	光熱水費15,000円 暖房費(11~3月)7,000円
敷金	有(35,777円)		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(3月15日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	79歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵庭南病院、恵庭第一病院、ユーアイ歯科、えにわ病院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成15年1月、恵庭市で初めて開設された民家改修型ホームです。利用者の個別性を尊重し、一人ひとりの力量を見極めながら、能力を最大限に活かすケア、思いに寄り添うケアに運営者・管理者・職員が一丸となって取り組んでいます。開設当初から継続されている週1回の音楽療法、食材の買物などの日常的な外出支援、墓参や見舞いなどの外出支援など、利用者の生活の継続性を重視した柔軟なサービス提供を実践しています。近隣大学の作業療法学科の学生やホームヘルパーの実習施設として地域に貢献しつつ、利用者本位のケアを提供しているホームです。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価で取り組みが期待された「地域密着型サービスとしての理念」、「評価の意義と活用」、「栄養摂取や水分確保の支援」については、改善されています。災害対策の項目については、地域との連携強化、災害時の備蓄品の確保等、一層の改善に向けて取り組みの継続を期待します。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義や目的を全職員に伝えるための時間を設け、職員それぞれが職域の範囲で、自己評価に取り組んでいます。評価結果は会議で検討し、改善に向けて取り組んでいます。
	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は2ヵ月毎に利用者・家族・民生委員地区代表・有職者・行政担当者・地域包括主任ケアマネージャー・職員を構成員として定期的開催され、ホームの活動報告及び事故報告、実習生受け入れ状況等の現状を詳細に報告しています。また、災害対策やSOSネットワーク構築に関して構成員から意見や助言をいただき、サービスの質向上に活かしています。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族来訪時に家族が要望や意見を気軽に表出できる関係を築いています。また、重要事項説明書以外に別途苦情処理に関する書類を整備し、内外の相談・苦情受付窓口を明示し、意見・要望の表出を促していますが、スタッフ間の情報共有がやや不十分です。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 近隣大学の大学祭に招待されたり、ボランティア、作業療法学科の学生、ヘルパーの実習生を積極的に受け入れるなど、地域貢献に努めています。町内会に加入して祭り行事に参加するなど、近隣住民の方々との日常的な付き合いは拡大傾向にあります。ホームと地域との十分な連携体制の構築までには至っていません。地域との双方向的な関係を形成し、地域と協働した利用者の生活範囲の拡充や安全確保への取り組みを期待します。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	従来からの基本理念に「地域の一員としての自覚を持ち、近隣との関わりを深めながら、個人を尊び笑顔・安らぎのある生活の場所を提供します」というホーム独自の理念を職員とともに策定し、地域密着型サービスとして柔軟な支援に努めています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、日々のケア実践の中で話し合い、確認し合いながら、利用者一人ひとりが馴染みの地域で、これまで通りの暮らしを実現できるよう可能な限り取り組み、理念に沿ったサービス提供に努めています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣大学の茶道ボランティアを年に一度受け入れ、大学祭に招待されたり、作業療学科やヘルパーの実習生を積極的に受け入れるなど、地域貢献に努めています。町内会に加入し、お祭りなどの行事参加はしていますが、十分な連携体制の構築までには至っていません。	○	運営推進会議への地域住民代表を近隣町内会役員に直接依頼したり、役員会にホーム代表や管理者が出席するなどして、ホームと地域との連携強化を図り、地域との双方向的な関係形成を期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義や目的を全職員に伝えるための時間を設け、職員それぞれが職域の範囲で自己評価に取り組んでいます。評価結果は会議で検討し、改善に向けて取り組んでいます。		

恵庭市 グループホーム すずらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヵ月毎に定期的開催され、ホームの活動報告及び事故報告、実習生受け入れ状況等の現状を詳細に報告しています。また、災害対策やSOSネットワーク構築に関して構成員から意見や助言をいただき、サービスの質向上に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市のグループホーム協議会に行政担当者が出席し、入居状況や認知症の発症状況について情報交換したり、ホーム側から運営上の相談を持ちかけるなど、市と協働してサービスの質向上に取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族来訪時の報告に加えて、毎月写真入りの通信に一人ひとりの状況を添えて、利用者の暮らしぶりを伝えています。身体状況に変化があった場合は、随時電話連絡するなど丁寧な情報提供を図っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時に家族が要望や意見を気軽に表出できる関係を築いています。また、重要事項説明書以外に別途苦情処理に関する書類を整備し、内外の相談・苦情受付窓口を明示して、意見・要望の表出を促していますが、スタッフ間の共有がやや不十分です。	○	家族からの意見・要望等は連絡ノートに記載し、職員全員が共有することになってはいますが、確認欄や署名欄がないため、連絡事項の徹底にまでは至っていません。家族との信頼関係を維持するためにも、徹底した情報の共有を図ることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、馴染みの職員によるケアの重要性を十分理解しており、勤務態勢の整備、業務改善などを通して離職を最小限に抑える努力をしています。職員採用時には、十分な引き継ぎ期間を設け、利用者や馴染みの関係が出来てから、ケアに当たるよう指導し、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています。		

恵庭市 グループホーム すずらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は段階に応じた外部研修への参加を促し、職員の研修参加や資格取得を積極的にバックアップしています。職員は年2～3回外部研修に参加し、研修内容は全体会議（2ヵ月に一度開催）の際に報告し、職員間での共有を図っています。育成マニュアルや研修の年間計画作成を検討中です。	○	職員育成を、計画的かつ効率良く行なうため、育成マニュアルや年間計画を作成する予定です。実現に期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は「恵庭グループホームネットワークの会」に所属し、講演会や研修会を通して職員同士の交流機会を確保しています。ホーム同士の情報交換、複数ホーム参加の外出レクリエーションの開催など、ともにサービスの質の向上に取り組んでいます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用に際しては事前に利用者・家族に来所していただいたり、管理者が自宅や施設を訪問して十分面談し、不安のないサービス利用につなげています。利用開始のタイミングや部屋作りを家族と相談し、利用直後は、きめ細かなケアを展開して無理なく馴染めるように努めています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の能力に応じた役割を見だし、利用者のペースで力を発揮していただく場面を生活の中に組み入れています。人生経験から培われた生活の知恵（家事や料理、園芸や人間関係のコツなど）を学ぶことも多く、共に楽しみ寄り合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で、利用者の生活背景を考慮しつつ、希望や意向を常に確認する支援を実践しています。利用者の言葉や行動、表情を注意深く捉え、会議やカンファレンスで検討しながら、利用者の意向に沿った暮らしの実現に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が3ヵ月毎にアセスメントし、全職員で毎日カンファレンスを行ないながら、他職員の意見・アイデア、家族の要望を取り入れた具体的かつ利用者本位の介護計画を作成しています。作成した介護計画は家族に説明し、同意をいただいています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じ3～6ヵ月毎の定期見直しに加え、日々のカンファレンスをもとにきめ細やかなモニタリングを実施しています。状態変化があった場合には、家族、職員と相談しながら、現状に合った新たな介護計画を作成しています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制の指定を受け、週に一度訪問看護師が日常的な健康管理を行なっています。利用者や家族の要望に応じて、かかりつけ医や買物、美容院、初詣などの同行や送迎、お見舞いの付き添いなど、一人ひとりに応じた柔軟な支援をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望に応じ、かかりつけ医に継続受診が出来るように支援しています。職員が受診に同行した場合は、受診結果を通信や電話で家族に報告し、情報を共有しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、看取りについての対応方針を作成しており、利用開始時またはできるだけ早い段階から家族に説明し同意をいただいています。利用者に状態変化があれば、その都度、家族、職員、関係機関と話し合い、方針の共有を図っています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の尊厳と権利を守り、誇りやプライバシーを損ねない対応に日々努めています。記録は所定の場所に保管し、個人情報に係る同意書（必要時の情報提供）を作成して、事前に家族の同意をいただくなど、個人情報の保護に努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの希望や、できること、したいことの自己決定を可能な限り尊重した柔軟な支援をしています。起床・就寝・食事など、利用者本位のペースで過ごせるようにきめ細かい支援を実践しています。		

恵庭市 グループホーム すずらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、買物・調理の下ごしらえ、盛りつけ、後片づけなどを職員とともに行なっています。利用者の好みを反映した献立を作成したり、畑の食材を調理に活かすなどして、食事が楽しみなものとなるよう工夫しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目安に入浴チェック表で確認しながら入浴の支援をしています。利用者の入浴希望を察知してタイミング良く声かけしたり、シャワー浴をしていただくなど、入浴をためらいがちな利用者へもきめ細かく支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりが家事活動や園芸で力を発揮したり、週1回の音楽療法の時間に昔の歌を楽しんだりする機会を設け、達成感や喜びのある生活を支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買物や散歩、夏場には菜園の世話などの日常的な外出に加えて、初詣やお見舞い、墓参り、自宅までのドライブ、馴染みの美容院への付き添いなど、できるだけ戸外に出かけられるように支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を十分認識しており、玄関は夜間（21：00～翌8：00）を除いて施錠されていません。職員の見守りの中、利用者が自由に外出できる生活、地域の方々や家族が気軽に訪れる暮らしを支援しています。		

恵庭市 グループホーム すずらの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で避難訓練や救急救命講習を年1回実施し、避難方法や経路の確認を行なっています。モデルケースとなって管理者会で訓練に取り組み、改善すべき点を見つけて検討中ですが、災害時の備蓄品の確保、地域の方々との連携が十分ではありません。	○	ライフラインが復旧するまでに必要な災害時備蓄品の確保とともに、昼夜やさまざまな季節を想定した災害時訓練を、地域の方々の参加、協力をいただいて実施することを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量は個人別に記録し、利用者一人ひとりが必要量を摂取できるように支援しています。嚥下状態に応じてとろみをつけるなど、食事形態にも配慮しています。2ヵ月毎に看護師に献立を見ていただき、助言をいただいたり、栄養バランスの確認をいただいています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型ホームで、生活感漂う家庭的な共用空間となるよう、植木や花鉢、掲示物や装飾等に配慮し、季節感が感じられる空間にしています。必要に応じてリビングで臥床できる場所を設け、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせる工夫がされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者一人ひとりが使い慣れた物や好みの家具、大切な品を自由に持ち込んでいます。家族と相談しながら、家具の配置を考えるなど、利用者が落ち着いて過ごせる居室となるよう工夫しています。		

※ は、重点項目。